

信頼される安心を、社会へ。



報道資料

2026年6月1日
セコム医療システム株式会社

セコム医療システム株式会社、インド／遠隔病理実証事業が、 経済産業省の令和6年度補正グローバルサウス未来志向型 共創等事業費補助金（小規模実証・F S 事業）に採択

～日本で培った遠隔病理診断のノウハウを活用し、
インドの病理医不足解消と医療アクセス向上を目指す～

セコム医療システム株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：小松淳）は、2026年5月15日、インドにおける遠隔病理実証事業が、経済産業省の令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・F S 事業）に採択されたことをお知らせします。

この度、採択された事業は、病理医不足が課題となっているインドにおいて、日本国内の医療機関で確立されている遠隔病理診断の仕組みを導入し、その有効性を検証するとともに、病理検査技師育成プログラムの実証を行うことを目的としています。

* 令和6年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金
（小規模実証・F S 事業）特設 HP

<https://gs-hojo-web-fspoc.jp/index.html>

・事業実施の背景

インドでは、がん診療に不可欠な病理診断を担う病理医が不足しており、都市部への偏在も大きな課題となっています。そのため、地方部では病理診断へのアクセスが限られ、診断までに時間を要するケースも少なくありません。

セコム医療システムは、提携病院である医療法人社団 誠馨会 千葉メディカルセンターとともに、2014年より遠隔病理診断事業を運営し、多数の診断実績と運営ノウハウを蓄積してきました。本事業では、その知見を活用し、インドにおける病理診断体制の高度化に取り組みます。

・事業の概要

本事業は、セコム医療システムの子会社である Takshasila Hospitals Operating Pvt Ltd が運営する SAKRA World Hospital（インド・ベンガルール）を拠点として実施します。

主な実証内容は以下のとおりです。

1. 遠隔病理診断の有効性検証

病理標本を高解像度でデジタル化する WSI（Whole Slide Imaging）スキャナーを活用し、デジタル画像による診断結果と従来の顕微鏡診断結果を比較評価します。

2. 病理検査技師育成プログラムの実証

千葉メディカルセンターの病理部門技師が、SAKRA World Hospital の技師に対して病理標本作製技術を指導し、高品質な病理診断を支える人材育成モデルを構築します。

3. 外部病理医師による遠隔病理診断の有効性評価

異なる専門領域を持つ外部病理専門医が遠隔病理診断システムを利用し、複数症例の診断を実施します。診断画像の品質、システムの操作性、病理標本の品質などを総合的に評価し、事業化に向けた検討を行います。

・本事業の意義

本事業により、インドにおける病理診断サービスの質とアクセス性向上が期待されます。さらに、日本で培われた遠隔病理診断技術や運営ノウハウ、高性能な日本製医療機器・システムの海外展開を促進し、日本企業の国際競争力強化にも貢献します。また、将来的にはインド国内主要都市への展開に加え、中東・アフリカ・南アジア・東南アジアなど病理医不足が課題となっている地域への展開も視野に入れていきます。

・今後の展開

本実証事業は 2026 年 5 月から 2027 年 2 月まで実施予定です。実証を通じて遠隔病理診断モデルの有効性と事業性を検証し、インドにおける本格展開を目指します。セコム医療システムは今後も、日本の医療技術・ノウハウの活用と医療 DX の推進を通じて、世界の医療課題解決に貢献してまいります。

■問い合わせ先

本件に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

セコム医療システム株式会社 企画本部 牧 高杉

TEL：03-5775-8150